

地場産業 ひょうごのじばさん



スポーツ（釣針）

▼北播磨地域の釣針製造業

県内の釣針製造業は、加東市、西脇市および丹波市周辺の北播磨地域に集積している。その起源は諸説あるが、1851年に下久米村（現・加東市）の庄屋だった小寺彦兵衛が土佐で釣針を作る技術を習得し、持ち帰って農家の副業として始めた説が有力とされる。生産は明治から大正にかけて機械化され、量的にも技術的にも大きく進歩した。2010年6月、「播州針」が地域団体商標（地域ブランド）に登録された。

また、当地には1987年4月に通商産業大臣（現経済産業大臣）により「伝統的工芸品」に指定された「播州毛鉤」がある。江戸末期に西脇市を中心に産地が形成され、手細工による優れた技法は今日に至るまで伝承されている。精巧かつ色鮮やかな毛鉤を水中で動かすと生きた川虫が泳いでいるかのように見える。「播州毛鉤」もまた「播州針」と同様に地域団体商標に登録されている。



播州毛鉤

2021年の兵庫県釣針協同組合および播州釣針協同組合に加盟の64社の売上高は12.4億1900万円（前年比10.3%増）となっている。両組合とも売上高が増えた要因の一つに、新型コロナウイルス下において密を避けるレジャーとして釣りが注目されたことが関係している。とみている。

ケミカルシューズ

▼2021年の生産量およびサステナブルな商品

2021年の生産量は、日本ケミカルシューズ工業組合加入企業80社の合計で、681万足（前年比17.4%減）の177億4100万円（同13.2%減）であった。もともと減少基調にあったところに新型コロナウイルスの影響が加わり、4年連続で減少した。

このような中、同組合は高級パンプスシリーズ「神戸シューズプレミアムライン」のサステナブルシリーズとして「For The Blue Collection」を追加販売を開始した。これは、海洋プラスチックごみの「廃棄漁網」を再生した生地を使用した婦人向けシューズで、海をイメージした「オーシャンブルー」「ディーブルー」と「ブラック」の3色が用意されている。また、販売用に紙箱を使用する手法を見直し、箱の使い捨ての問題など環境面の課題に配慮した。商品の外装として、紙箱の代わりに靴



神戸シューズプレミアムライン
サステナブルシリーズ
「For The Blue Collection」

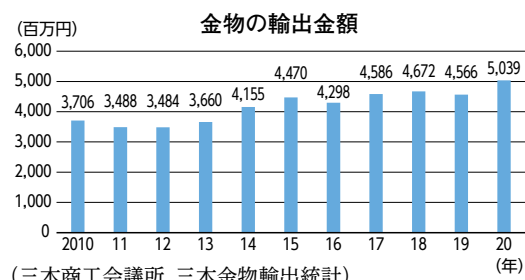
と同じ素材を使った布製の袋をシューズケースにして販売する。持ち帰り後は巾着袋などに活用できるようなっている。

金物（三木）

▼輸出好調、目標を前倒しで達成

2020年の三木金物製品の輸出額は50億3900万円となり、三木市が策定した目標値、2023年までに49億円を前倒しで達成した。

輸出が好調な要因の一つは、「みきかなもんプロジェクト（2016～20）」で海外の展示会へ積極的に出展し、その優れた品質が広く認知されたことが挙げられる。三木金物商工協同組合連合会は、ドイツのケルンのハードウェアショーには18年に、台湾の木工工具の展示会「五金展」には16年から19年まで4年連続で出展し、三木の金物のPRを行ってきた。20年以降コロナの影響で展示会の中止や延期が続いたが、今年はベトナムの木工展（開催予定10月）、ハードウェア展（同12月）へ出展を予定している。



一方で、コロナの巣ごもり需要からDIY向けの売り上げが世界的に増加したことも要因の一つと考えられる。また、同連合会は21年にホームページをリニューアルし、個別企業の製造現場の写真の掲載や英語・中国語表記の対応を行った。これにより各社の直接販売や問い合わせが増加すると期待される。